

曳博だより

2019.10



編集・発行：(公財) 長浜曳山文化協会 〒526-0059 滋賀県長浜市元浜町14-8 TEL0749-65-3300 FAX0749-65-3440
【ホームページ】<http://www.nagahama-hikiyama.or.jp/> 【Facebook】<https://www.facebook.com/hikiyamabunka/>



長浜秋の曳山巡行

令和元年 10月12日(土)

9時より曳山博物館・周辺道路にて

※荒天時は11月3日(日)に延期

春に開催していた

「曳山交替式」を秋に開催

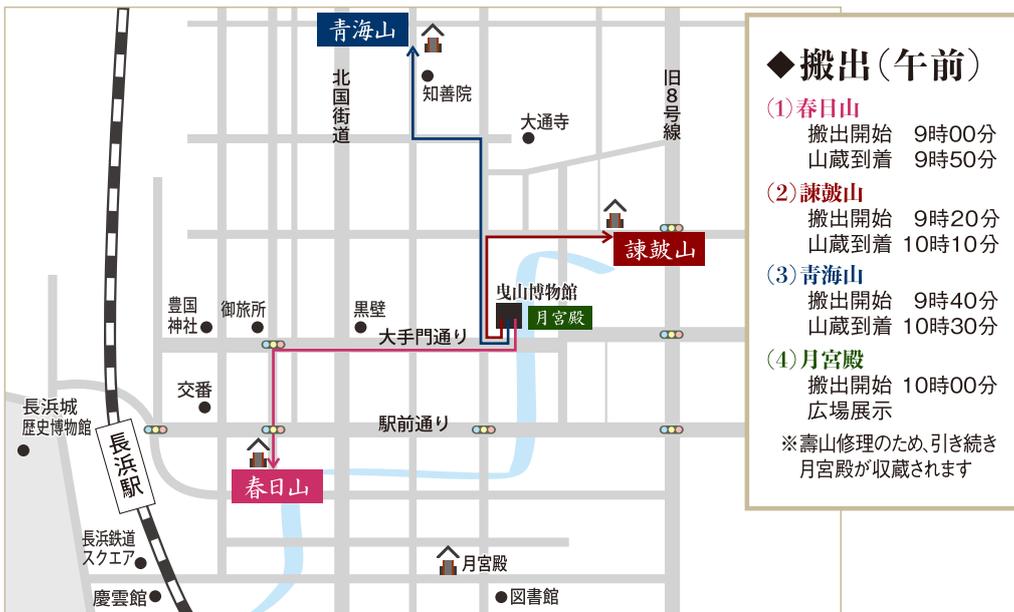
長浜市曳山博物館では、祭に出る実際の曳山を展示しており、長浜曳山祭が行われる前に、展示した出番の曳山に代わり、翌年出番の曳山を収蔵する行事を曳山交替式として毎年、春の祭執行前に行ってきました。

豪華絢爛な曳山八基を曳行する大きな催しであり、ユネスコ無形文化遺産の曳山祭を全国に発信する場を、秋にも設けることを主眼に、曳山交替式から秋の曳山巡行として開催します。

春は長浜曳山祭が挙行され、秋には八基を曳行する秋の曳山巡行を開催し、春、秋と長浜曳山祭の魅力を発信、保存・伝承を推進します。

秋の曳山巡行（曳山交替式）の開催

十月十二日、午前九時頃から、曳山博物館に収蔵中の春日山から順次曳き出されます。月宮殿は、壽山が修理中の為、引き続き四月三日まで収蔵展示されます。



午後は各山蔵から博物館に向かって曳山が曳行されます。途中、三十分ほど曳山を止めての公開があり、写真撮影なども可能です。



博物館実習

八月十九日から二十二日の四日間で、博物館実習を行いました。今回実習に参加したのは、四月にも実習に来た二名の学生さんですが、フィールドワークを重点的に行った前回とは異なり、今回は博物館や学芸員の業務に関する実習を行いました。

具体的には、曳山祭に関する資料の写真撮影や調査の作成といった資料調査、資料借用の見学および補助、また染織品や古典籍、軸物といった資料の取り扱い講習などを実施しました。いずれの実習でも、二人とも真面目かつ積極的に取り組み、最初は慣れなかった作業もみるみる習得していき、四日という短い間でも多くのことを吸収してくれたようでした。



博物館実習（資料撮影）のようす

当館としても博物館実習の受け入れは久しぶりのことでしたので、どのようなことを実習に盛り込めば効果的か、学芸員・博物館職員という仕事に興味を持ってもらえるか、ということを考えながら実習のプランを考え実行するのは、我々博物館職員の側にとっても、非常に良い経験になりました。

「博物館実習を振り返って」

博物館実習を振り返って一番強く感じたのは無形文化財を扱っているため、他博物館と違って展示できるものが限られている。曳山や祭礼で使われている装飾や道具などは時代により形が変化するため、展示の難しさを感じた。博物館で一番の見どころである曳山を展示する際、曳山を傷めさせないための様々な工夫をしていることから曳山博物館は曳山祭をどう後世に残し、曳山を保管していくためにはとても重要なのだと感じた。

(淑徳大学人文学部歴史学科四年 横田宏輝)

「長浜市曳山博物館での実習を終えて」

五月の曳山祭りの見学を経て八月十九日から四日間、長浜市曳山博物館で博物館学芸員の実習をさせていただきました。

実習では博物館の運営や経営に関わること、資料の保存、展示、修復など学芸員の多岐にわたる仕事について教えていただきました。様々な体験の中でも、曳山祭りに使われる山の修復現場の見学をさせていただいたことと、他の博物館から資料を預かる現場に立ち会わせていただいたことは得難い経験となりました。

今後も長浜曳山祭りがたくさんの人に愛され長く続くことを願っています。

(京都精華大学芸術学部造形学科洋画コース

四回生 吉原智咲)

企画展 曳山を彩る絵師たちⅤ「杉沢春厓」(令和二年三月開催予定)

杉沢春厓(すぎさわしゅんがい・一八二九〜?)は、江戸時代後期から明治時代にかけて湖北・長浜で活躍した画人です。文政十二年(一八二九)に坂田郡下之郷村安福寺(しものごうむらあぶくじ・長浜市下之郷東町)に生まれ、のちに長浜片町(大宮町)に移住しますが、明治五年(一八七二)の『長浜町印鑑録』の片町に氏名の記載がないため、これ以降に移住したと推定されます。画人として、絵の手ほどきを受けた師匠などは一切不明ですが、画風や長浜町との関係から四条派の流れをくむ絵師と推定されます。代表作の一つに、長浜曳山祭・壽山の舞台障子腰襖「柘榴小禽図」があります。本図は、鮮紅色の花と割れた果実をつけた柘榴の手に、気高い白い花が咲き乱れる白薔薇の樹を配し、向き合う様に黄色い小禽を描いています。柘榴は、六月頃に筒状の花を開き、秋に大きな実が熟します。描かれた柘榴の果実も、熟れて黄紅色の皮が裂け、中にある多数の種子を露出させています。落款から、明治十三年(一八八〇)九月、春厓五十二歳の作品であることが判ります。この舞台障子は、春厓の代表作です。

また長浜町と故郷安福寺などに、二十数点の作品が現存します。没年は、不明ですが、明治三十二年に七十一歳の年紀のある作品が残っ

ているため、明治三十二〜四十年代に死去したと推定されます。なお未亡人や遺族が、大正初年頃まで片町に居住していたと伝わります。この企画展は来年三月より、開催予定です。どうぞお楽しみに。



西園雅集図(部分)
個人蔵



舞台障子腰襖「柘榴小禽図」
大手町組壽山蔵

修理ドックから

修理ドックでは、いよいよ本格的な壽山の修理が始まりました。七月の初めには木部の解体工事が行われ、亭や舞台屋根などが取り外されました。解体されたことにより、普段は見ることができない、部材の裏側に記された墨書などが明らかになり、新たな発見もあります。

例えば、木彫の裏面に記された墨書からは、各所に施された人物彫刻は、中国の仙人をモチーフとしたものであることや、壽山の彫刻は少なくとも二人の彫刻師によって制作されたことなどが判明しました。

木彫以外の部材にも、修理を行った年月日や、修理を請け負った職人の名前が記されたものがあり、壽山の歴史が少しずつ明らかになっていきます。

また、七月後半より、各部材に取り付けられていた銚金具の取外しも行われています。壽山の銚金具は、随所に七宝焼きがあしらわれているのが大きな特徴です。七宝焼きはガラス質・エナメル質の工芸品で、割れやすいため扱いに注意を要します。そうした織



壽山修理監理のようす

細な七宝金具の取外しは専門委員の立ち合いのもと行われ、銚金具修理を担当する辻氏の手による長時間にわたる慎重な作業ののち、無事に取外すことができました。

今回ご紹介した解体および取外しの作業は山場を越えましたが、今後とも職人の方々による慎重な作業が続けられてゆきます。



壽山修理監理のようす

開催報告

曳山祭関連おりがみ教室

令和元年八月七日(水)夏休み企画「曳山祭関連おりがみ教室」を開催。提灯や扇子、ハッピーなどの折り方を教えていただきました。



おりがみ教室のようす

講師：池田明美先生
参加者：19名(付添い15名)

展示等のお知らせ

令和二年(二〇二〇年)、長浜曳山祭の出番山が、ご覧いただけます。

10月13日(日)～10月27日(日)

曳山四基特別公開

【鳳凰山・月宮殿・猩々丸・高砂山】

10月28日(月)～

曳山二基公開【猩々丸・高砂山】

曳山の展示

10月 壽山

11月 春日山

12月(曳山博物館)

山組マンスリーとは、1か月ごとに、各山組が担当して、博物館を活用し、来館者に長浜曳山祭や曳山の魅力についてを独自の視点から紹介・PRしていただく企画です。

山組マンスリー



NAGAHAMA HIKIYAMA MUSEUM

曳山博物館

ON THE CROSSROAD OF OTEMON St. AND HAKUBTSUKAN Ave.

発行日：令和元年 9月25日